

表題	水稻「夢いずみ」の移植期と栽培特性	機関	農業研究センター 農産園芸研究所
概要： 「夢いずみ」は移植期の早晩により出穂期、成熟期が移動する。5月中旬～7月初頭移植の範囲では生育、収量、品質に甚大な障害はみられないが、中生種との組み合わせによる収穫期分散及び収量・品質安定の観点から、6月5～25日の移植が適当である。			

研究のねらい

極良食味の水稲品種「夢いずみ」について、移植期を変更したときの生育、収量及び品質の変動を調査し、「夢いずみ」の移植期の検討の資料とする。

研究の成果

1. 「夢いずみ」は、移植期の早晩によつての出穂期及び成熟期を移動することが可能である。ただし、出穂期及び成熟期の移動幅は、移植期の早晩幅より小さい。
2. この性質は「ユメヒカリ」に似ており、各移植期とも「ユメヒカリ」に比べて4日前後早い出穂となる。
3. 6月5日～7月2日移植の範囲では、同時に移植した中生種「ヒノヒカリ」との成熟期の差が8～9日であり、中生種との組み合わせによる収穫期分散を図ることができる。しかし、5月15日移植では、同時に移植した中生種と成熟期が近接する。
4. 移植期の早晩と収量の多少には一定の傾向が認められず、年次間変動も少なく、特に6月5～25日移植の収量性は安定性している。
 5. 収量構成要素については、「ユメヒカリ」より籾数が少なく、登熟歩合が高く、千粒重が重い。
6. 玄米品質は、総じて「ユメヒカリ」と同様に良好であり、移植期による違いは「ユメヒカリ」より少ないが、7月2日移植ではやや低下する。
7. 以上のように、「夢いずみ」を5月中旬～7月初頭に移植した場合、生育、収量、品質に甚大な障害はみられないが、中生種との組み合わせによる収穫期分散及び収量・品質安定の観点から、「夢いずみ」の移植期は6月5～25日が適当である。

普及上の留意点

1. 本試験は比較的地力が高い条件で行った。地力が低い地域では本試験結果より生育量が少なくなることに留意する。
2. 「夢いずみ」は、穂いもちにやや弱いため、いもち病防除を徹底する必要がある。
3. 収穫適期は、一般に成熟期より数日早いことに留意する。

表1 移植期と出穂期、成熟期

	移植期 (月/日)	出穂期 (月/日)					成熟期 (月/日)				
		H8	H9	H10	H11	平均	H8	H9	H10	H11	平均
夢 い ず み	5/15	8/18	8/17	8/8	8/10	8/13	10/4	9/25	9/17	9/20	9/24
	6/5	8/29	8/26	8/23	8/25	8/26	10/11	10/17	10/5	- ²⁾	10/11
	6/18	9/5	9/1	8/28	8/31	9/1	10/23	10/31	10/13	10/15	10/21
	6/25	9/9	9/2	9/2	9/4	9/4	10/26	11/1	10/20	10/20	10/25
	7/2	9/11	9/4	9/6	9/7	9/7	10/27	11/2	10/26	10/24	10/28
ユ メ 比 較 カ リ	5/15	8/22	8/21	8/13	8/13	8/17	10/6	10/7	9/25	9/25	10/1
	6/5	9/1	8/30	8/25	8/29	8/29	10/15	10/21	10/9	- ²⁾	10/15
	6/18	9/10	9/5	9/1	9/3	9/5	10/28	(11/2) ¹⁾	10/18	10/20	10/25
	6/25	9/13	9/6	9/6	9/7	9/8	10/30	(11/2) ¹⁾	10/25	10/27	10/29
	7/2	9/15	9/9	9/10	9/11	9/11	11/2	(11/2) ¹⁾	10/30	10/30	11/1

注¹⁾: H9の「ユメヒカリ」6/5~7/2移植は、11/2の霜害で成熟期に至らず枯死したため、11/2を暫定値として平均に加算した。

²⁾: H11の6/5移植は、倒伏(5)により成熟期の判定が不能であった(平均に加算せず)。

表2 中生種「ヒノヒカリ」との出穂期及び成熟期比較

移植期 (月/日)	出穂期 (ヒノヒカリ:月/日)	出穂期日差 (夢いずみ - ヒノヒカリ)	成熟期 (ヒノヒカリ:月/日)	成熟期日差 (夢いずみ - ヒノヒカリ)
5/15	8/11	+2	9/22	+2
6/5	8/19	+7	10/3	+8
6/18	8/25	+7	10/12	+9
6/25	8/28	+7	10/16	+9
7/2	8/30	+8	10/19	+9

注) データはH8~H11の平均。

中生種を「森のくまさん」とする場合は、各移植期とも出穂期に+1日、同日差に-1日を加える。

表3 移植期と収量、収量構成要素及び品質変動

	移植期 (月/日)	収量 (kg/a)					初数 (千/m ²)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	検査等級 (1~9)	倒伏 (0~5)
		H8	H9	H10	(H11)	平均					
夢 い ず み	5/15	62.0	55.8	59.1	(55.0)	59.0	36.7	78.6	22.0	2.5	0.3
	6/5	55.4	54.2	57.4	(44.2)	55.7	34.6	72.9	22.1	2.7	0.0
	6/18	59.3	58.0	55.0	(45.5)	57.4	39.2	70.8	22.3	2.7	0.3
	6/25	51.6	54.0	50.7	(40.8)	52.1	37.3	70.4	22.4	2.7	0.0
	7/2	57.4	58.5	49.2	(41.1)	55.0	35.8	67.6	22.8	3.2	0.0
ユ メ 比 較 カ リ	5/15	71.4	59.2	57.5	(53.7)	62.7	41.9	78.4	20.8	3.2	0.3
	6/5	64.4	56.0	62.4	(37.6)	60.9	39.8	70.4	21.4	1.8	0.0
	6/18	59.4	63.2	55.5	(48.9)	59.4	41.1	68.3	21.6	2.2	0.0
	6/25	61.3	57.5	51.5	(44.3)	56.8	41.4	66.9	21.6	3.0	0.0
	7/2	57.2	59.8	42.2	(46.2)	53.1	36.5	65.0	21.9	2.8	0.0

注) データはH8~H11の平均。H11年は台風第18号の影響が大きいため平均から除外した。

参考) 試験条件

試験圃場: 熊本県農業研究センター農産園芸研究所 精密水田

育苗方法: 箱育苗(水田苗代)、播種量: 乾籾100g/箱、育苗日数: 30日

栽植様式: 条間30cm x 株間15cm (22.2株/m²) 1株3本手植え

施肥量: 基肥0.5、穂肥(出穂前20日)0.3、晩期穂肥(出穂前10日)0.2 (窒素成分 kg/a)